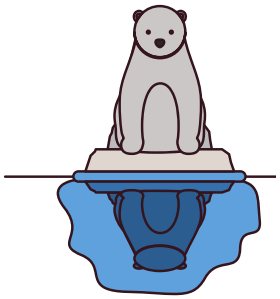
WORLDBEYONDWAR.org
a global movement to end all wars



石油のための戦争はもういらない戦争のための石油はもういらない

戦争および戦争のために準備することは、環境破壊の防止に充当できたかもしれない 数兆ドル を無駄にしただけでなく、環境破壊の直接的な主要因にもなります。

1 米軍は地球上で最も大きな汚染源の一つです。2001年以来、米軍は12億トンもの温室効果ガスを排出しており、それは道路を走行する自動車2億5700万台分の年間排出量に相当します。「国防」を標ぼうする米国防総省は世界最大の石油消費者（17兆ドル/年）で、80カ国に800もの国外基地を所有する世界最大の土地所有者 です。推定では、2008年に米軍はイラクで120万バレルの石油をわずか1カ月で使い果たしました。また、2003年の別の推定では、米軍の燃料消費のうち3分の2は 戦地に燃料を運ぶ輸送車から生じています。

2 環境危機が深刻化する中で、戦争を環境危機に対処する道具として捉えてしまうと、私たち自身が悪循環に陥る恐れがあります。気候変動が戦争の要因だと宣言することは、人間こそ戦争の原因なのだという現実を見落としています。私たちがこの危機を非暴力的な手段で対応することを学ばない限り、この状況は悪化する一方でしょう。

3 石油や天然ガスなど地球に有害な資源を支配したいという欲望が、戦争の主たる動機となる場合があります。実際、豊かな国が貧しい国で戦争を開始しても、開戦自体と人権侵害、民主主義の欠如、テロの脅威との相関性は存在しませんが、石油の存在との相関性は高くなっています。

4 戦争はその地で多大な環境破壊をもたらしますが、国外や自国の基地周辺の自然環境も破壊します。米軍基地は、 米国内で3番目の河川汚染源です。